往言田舍稼

夏

特
遠へ
1749
2

へ遠13
1749
2

式亭三馬戯題

[illegible]お[illegible]で見をいさ[illegible]。トキニ羽三の公[illegible]

[illegible]。○公[illegible]して智の前見式三番とつ[illegible]。其つぎたるあ[illegible]

[illegible]ト幕あり。右[illegible]産中あ[illegible]頭原にトの役をつとめて。明日の狂言。仰[illegible]と外題を披露。「サア」

[illegible]。右ひとまくの浄るりいろ[illegible]の段。

「うる[illegible]のう。トキニ[illegible]葉へあて粉ぐろうまくりて

のんで[illegible]。孫[illegible]へ[illegible]。チト[illegible]

[illegible]第と[illegible]物ぢや。[illegible]。羽三[illegible]中[illegible]せゆや

あゝんあんべらや。おそまつさに成ると。みゝまゝ「てハたまゝん。
せゝく。仕ろく。ト落語を知る「アイ落語さん。さぞや。で「まゝと
敵ゝふ寄やと。「おまゝ寄らいでものこゝろやらう。
で「ナント初日の出物ハ何ぞの。出物とハ芝居のこと「親ごやとゝ呼
ぶ。落語家で「ゝ。ぜゝゝ。今度役ゝもぜけど。甚代
よりハよゝゝふ役まゝりぞ。「あぜふ役ゝゝんぞい。
甚ゝゝの田舎ゝりやに。「そゝりやアさうぞの師匠と
一ゝよ甚ゝゝまゝ。「左く。田さゝゝる。ッレ。ハ。ハ。

化ハが出るぞらうゝ。是ハあてあさまりあーぞゝゝ。頭と
一ゝ打ちやア番付。頭ゝゝ人形の頭ゝり今度の衣装ハ。泥平ぞ
ゝゝ衣装ぞゝよゝ。ゝゝとヤンヤぞ。おやまの福あんぞハすて
きゝある。それふ世話おやまぞ立場ゝぞもあらうゝ。
ゝゝ家でも出さゝう物あゝ。出る立て同ド物を着
せ移ゝ。振袖ぞ七番。上下ゝゝ時代衣装ゝ役の衣
仕舞まで拵ゝゝア。ぐゝてきぞ。ぜゝゝゝもゝぞゝと。人形ゝひ
して。ゝきゝ屋まぞるなりてく。目玉金ぞ衣装ゝと見と

らう。あれでさへの世で通らうか。「ドちやむたち郎ぢやナ。
でドちやうへ食「甚上安くハ出さう稼へ山乃左国の太郎四郎ちん
きやうへたうーろちんきやうーふ。ちろうと芝居のす。出ーて。かけてのつて飛
つてぶ。忽ちうあくーと。「ドぶらそ居るでハあるの。でく「人
ドろ所で。ちろざぶ。そ稼うーとぶ。ニスくーこ。でく「はたら稼へ
ろ。ちうとぶ。芝居の元ハ。関東十八座といふぶ。今
でハ休座ぶ。いのう。横いのう下野の少係差稼ぶ。
今ハ稼へぶ。稼業へ金程をゆされるのぶ。上總の東

六華。六華。さいま。浦之逸。上總ふ居て。家居ぶ上總
屋。誰も山ぶうーく名をいふのハ稼へ。一軒で稽を
ふろ拵て居るハ上總屋ぶろうさ。今で盛ふ。ろ
てあるふ。跡ろの。柿本妻たる丈さ。味噌の醗左衛門。
津山。辰松。出来ぶ休ぶ。いぶられる。ぶ。
ぶぶ。ぶ。ぶ。操座ぶの若松の七義芝居。毒屋与
兵衛と云ーく。ぶ。ぶく。田人舎での操座ぶ。今でも
ち体。寄稼。妓ふ。ぶ。ぶ。ぶ

のう。二十五六年の出うてハ繁昌〳〵ふか。田舎の大
尽や小旦那そこめ皆稽古〳〵て人形を拵ふこと
あるこそ。よろぴど金ふるつて。芸ハ年中打通〳〵
どが。時〳〵の休ハ遊ぶ〳〵田舎人ばさめんど。是こそ
象州名人ばて是ハ。黒鼻をおぬ者ハの一人も
稀人やうど。川堤江ふ先山川のあるハ。荒川内
池芝居と云て年中あつことぞ。甚代もあ。
大まま流も。座年まハ。ひどきふ扱ふれさう上条

新のおの座元あんぞハ。甚年にもふてどうこうサ。
胡麻を皆ぬで食ふと座年が出てどうちやか
大文さん達阪が食ふか。トいわサ。そこで。ハイと返
河とまるとハアそりやあるのちや阪が食るかぶば
浮ふりを阪食ふ丈ふ浮ふんせ。それそふとそふら
ふ新まるとこふるか。ナント新色ちやアあるか。行
でも座元の流が利さめのさ。イヤア。甚若ハこそで
ゆうてる御ぬ。へ阪大文ハ我分につまさ水て

いてくれやうらしが左右の地蔵尊座く待てこそあつしがな。
家の中ふ稲荷がおるとおりくんせまづ床の棟木
うらへ。縄をとりてくれんぢや。それふ杉板を二枚重ねて。
横ふ渡しうけてくれんぢやいな。大きつも三尺も甚上ふ
腰うけぢや。ナ結ろ。縄で提てあるさいゆりくと
雷がとるぞいトあやまきて。ア。其時の宿物も。それく。
おし考へ
ヨラしが後ふ近江源氏の九郎員であつて。ナニガ彼。
ノリ地よりくらうとまるふ。ヱヤト。あくこ。ヲレ。ねんぢや

いい。おしい地蔵ふ敵の大軍どうと押寄。コリヤ。シイ。
うたうて
とゆるると。ゆ者ふ甚四ふめりくとつのつぐ。サア聽
あるれ。其縄めぐり切くくて。大夫三絃風勝べくう
だや。イヤサ今でこそ可咲くられ。狂員まのうち白湯ば
こぶれてこ結も本もめつくくぢや。ヤこれるくん。
どう甘うそのといそ。二人ぐうくくくある中ふ下
でハ人形やあて。どうだやつく。板ち乗つ仰をトチリ
くさるぞん。板たくくとハ大夫をのくくトチリとふくくくて物まの達くこと。ごくどうあ。引き

ざせ〳〵と亜陰の陰謀だちや。やりとふ抜き蓋をでく〳〵のしるさるるぐると「そ
いつもの大笑ひぐらつけの「それ〳〵ナア聽んせ。漸〳〵の
てと世話人が来をうてナ。東西〳〵。呂八う家の中よあや
きちぐ出まあさうん。ちばし〳〵中へ入てこの幕をひせ
さうい。二人「ハ〳〵。で「ちう〳〵「可哀こと地芝居でもあけ
るもやア土産ゆるること極へと。此後世ちとおそらく
はし〳〵いこともあるめ。人形者ハおりのさる芝で踊らう
うされ。もせうやこ〳〵とよびつれさ。「サアこの味線ハ

撥の尻で擲らるとたまるハ極らんぐ〳〵ぐらう呼ばされ。
イヤ又寒にろ稲るの今のめんちやるのふんの。「甚
はもも淫婦産の貧夜。芝居ハ見ぬくちやアれく。
「ハそうやこうう情の罪科ちや。ほアよりよりまぐ
一日働さあとぐ又義芝居ふん。「ちふ教るの糸
夕とお同ふうけ〳〵量よてたまるめくちやア稲く。
「トット息さる儲ぐ多のふん。ハテまも又大たまれ
ぐ。何やとまあされ。ヲット合ちやぐ。こち〳〵極か

へ行たぐ分らでハナ。出るもの〳〵皆さうん代物ぢや。

「おゝ初よ。お間ふうりやゝ〳〵。四心一致くわ程ナやきろス。

よく出る中つぐ刈豊の墨染桜」「それいの。江戸

浄るりで石田治部茶屋軍記〳〵いよ浄るりの三

段目よそゝ。ぼナ。焼阪刈豊で「まよッ。義経

新る館」「おれハ何ちやいの。南蛮後後見目

貴の寿親ぢやいナ。江戸てハむゝ〳〵の元祖おさん

の芝居で鳥ぢうぐ。ソシテ義強新会状とも

いふ外題でナ。是も又肥前産でむゝ〳〵有さげか

「兎角肥おさんのふうふ義経ぶの。」「兄

弟ハ是ぢ足のごくとふ太序の狐でナ。今潤ゝ義

経腰蓑状ぢやいの。後後見目貴新る館新会状

腰蓑状。皆おゝ〳〵ぐるぐるナ。腰蓑状ハ後後の生

酸場の生端ふある。枕の文句ぢぐ遠ってある。其外

一月の狂言の中ハ。江戸目ハ先で出重〳〵たりぐやナ。像も

あゝとゝくうゝて文句もあゝ〳〵いの。やりくりぐあるぐろと

ぢやらんの。で「さうのようこそ滑石よりなるもの。おのくさち
でるくらやうまるねえ。」「まるのう悪いのう。トット
解げぬか。三人「ハヽヽで「田舎でこそるやつぶ以呂波歌の
「三組盃うん。田舎あるきせん者ハぬでハこちん
ひの。一体ぢ。おろくの走らぬ方ハ損ぢや。おろくの
しくハ文まのでく「さうさ。宮のさく撰しバ達者よ撰ふやら
よあるを。
うもろ〳〵の。ろ〳〵極人物もあるの合せる。あんでも人形
ぢひの脊の低いのと。猿の頭へのぐいぐす。三組潮の寄れ

ぢやこと。大変の声。什甲製紙者ハ紙〳〵極人。今変お
ぜの場人何ぶご。「進物場ふ道行のシテ。変〳〵
又。外変場ぶ。彼だちやぶ。猿だちいつまち。今変種る
ぶハ。穂る古場で。外てあ所ぶあるちん。こちに異てて。什
物よ物山さん。猿ちあふ撰ちさハ。「達入れぶ方
ちんど変あれハ口よでぶ。おあくの名ち呼ぶハよ。人形の口上
まて給金よろ〳〵さ宮あるのあるめくよ。又。大変風邪の形ふ〳〵
あ〳〵ちて陰陽ちる八甚ち変ようる陰陽の事物あるよう。こちに
声ぶれ。旅本旅ち彩ち変。酒本酒ち変。割竹火周宝変

吹所薪太夫。赤下る郷太夫。釜本土瀧太夫。化本見誠太夫。どれも〳〵おげうん名ぢ。「いづれ芸人てもあるまい。」「ア代表。」「ア代音頭も活れる着ハるん。」トまーもとゆくとろ。十二三ともおぢ〳〵きうころの少姫。少風呂敷よ包てるホと。行まよハ茶羅をさげて。で「コウ〳〵。」婦人「てあくの提さのさ。」ぢやとよりもまると。「ア。」「ア。」「ア。」

でゝ。御名ゞ匂ひざよ。ヲヽこゝ。そんゲア。ヒウドロ〳〵。
トこゝに彩をして。娘ア。こゝうござゝアよゝ。ト大声上て小姐
ハ。ヒ〳〵。
でゝ「おさゝ。安寿姫ーやゝ。」「對王姫ーや
ゝうやれ〳〵。」「牡丹姫ーやゝ。」でゝ「牡丹姫
ゝうやれ〳〵。」「隠頭姫ーやゝ。」でゝ「いゝ。海。猿ゞきゝ。山宝心丹
ゝ。」でゝ「おゝ〳〵。北武者所。」でゝ「その所ゝ。」
「馬ゞ能の次郎。」でゝ「実ゝん。」トいまゝ。こゝあゝ。
こゝら屋へ。供ゞ。ゝ。馬ゞ。「ヤアゝイ。」通て。

毛ヤアゝ。主さゝ。ゆゝ。ゝよゝ。ドウ〳〵。何のゝ。
「畜生。端ゝ。あゝきゝ。ゝ。バリ〳〵バリ。」「畜生め。
ゝ。ゝも。ゝも。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
「馬のいゝはゝ。ゝ。ほの字を。ゝて。ゝ。ドウ〳〵。
ハイ。ハイ。ハイ。ハイ。ゝのゝすぎて。見那。馬ア。ゝ。馬ア。
べいぢやア。ゝか。「馬を。ゝて。ゝ。ゝ。
ゝて。ゝを。ゝ。「酒。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。「ゝ。ゝ。「ゝ。

馬ごやうら。安くかりまるとぐい。ドウ。ト馬を
借る宿
探付まで三里ほどの所ごろ。田舎を通ごろ〳〵おめく
さん。四里ほどの所を通へハア。又まふ長い町場ご。
「サア結ハ長い場ごと安う駕せるあぶナ。「虚
の押合をして。「馬と借ごぶ結ふい。馬士「何おめく。
臺物ごやごぜんね。「サ借ごぶ結とふふの。
買て結うこハいまいぶの。駕「あんごろわんれく。ガ
馬ふ駕らうしやん行くうとのさ。「サ駕るふの。

ジヤガ　変とのお供ごや。「馬ふ駕るうちのお借る。
まるとふのく。ガ持ごやアあるめく〳〵馬と借て
うごれも高めく。ハテサ。馬でも駄ごうとハごうしく
辞ぶ来のう。馬でも食て通るハ。まるまるこちの分
ごそんか利屋をこちやア。物ぶ長熟し行くうそ
こ〳〵ごぶとぶん駕して。幾ぶ高ぶバ。
馬士「今ふ通りごぶ。三百で結アきまるべ。「フム。
考く。何も彼も委細接ず。打放しの月夜で

ハ〜ハ。はなし馬吉たる「月夜と。トガ〜どうぐ〜ぐ。
ぐ〜ぐ。
ぐ〜ぐ。

こちらの乗る時ふ。はを乗んあらん。こりや乗のるちや。備こ乗さんの乗る時よ。はかで綱を乗ざるるあい。一里六丁の道を。的さんと私とで。代〻取るさうい。馬道賃として二人よ六千四文越さんせまたと。まざ乗。酒代の三十二文ばかも取るやうに合んが人で百二十二文。こちらくさんせ。こ乗さん一里六丁ばかり他ふ綱賃せて。騎る丈ばかりけだや。馬士「それだや。己が馬に。己が乗て。百二十二文損るのざ。こそで「まア甚銘

ふ物ろん。で「甚代。おつくがば馬士「おあ乗ざ。二里十二丁唯乗て。こらざあや。一里六町で百卅二文。おやろふ。損ふ虚勘記ざ。ハテまアよ〻ますべい。こそで「コレく。さう氣遣よいふ物だやろん。馬士「あて。嘲されるやうかもんざ。で「コウく。何の彼のといふふ。先刻ろふ所も騎後れろ。こそで二百出すも惜ふ。ナント中をとて。とんろきに捌ろだやア。で「又。大まろをやるまへぞや。で「ハテ乱さあく

八十さ〜ぜ〜。ゑ。おれが八十ス。メて百六十ぜんこれで
利あり〜せうことだね。馬士「ようござる。変やすぐい。「トく
まつておまちがあるもんぢいさもくさも。ゑ。すんぷりと
いつぱいめくいな。サア乗るだい。「こしく。ちらを先く
の駕せてくだんせ。「コレハ奇なることを乗るものかな。れ
が掛て先へ馬だ〜。まだ先くまるのだこりや些
出発おくと遅られます。「さもさうだ。待もあり
ません。チョツ。いまく〜い幽鬼めらやナアトあとで「乗

助く〜。「ト声「ヨヘシく。こりやく。紙屑。旅ごもの。履物よ
ものをつけい。「あそうつ〜とれ。「ふ。ちよいとの
て。ぶれい。ちん。ゆう。「ア本。ぜん。ぜ。ぜ。
しわ。病づして。ぶ。ぶ。「ごくどうめ。度。関。だうり
ぬ〜とるい。馬士「見物エ。おめくぐも。桜。村。紙。ぐ。今
度の芝み。紙てのるぐ子。芝居のことを田舎の方言。「さう
さ。馬士「モノ。明。の。ぢ。箱。屋。ぐ。ぐ。ぐ

勧進元ごげご。いく盛るべい。十里四方へ聞ア響く響く男
どろ〳〵蕎〳〵亜ア。引き馬ゑ〳〵押うけべい今度の
太夫どのハ。田舎回りれへぐ〳〵さぢやアあんも「ア
耳ガいく〳〵皆歴〳〵の太夫ぢやや。「とーさ」ままぐ旋猛ぢやア
猛く。皆江戸で一枚看板の出太夫だろうよ其津まも
旋毛の太夫さんといふも。ちきふ宿屋の若旦那ぐら。
浄るうりゃ好で到頭太夫まるつさ。八間四面の角
屋敷を浄るうよぶちいで。引上げ伽藍堂ふ〳〵

男ス。トうーろを向て。馬のそば〳〵と同（今での三
よう〳〵舌をべロり。）（新で仕度をする）
の切浄るうぢやナ。「軒看でハ三の切土場へ出て三百切
五日ともも新〳〵。孫〳〵小道具屋のゑ浄といふ日数ぐ
そば〳〵太夫。うーろようつぶを。ぐるでく新
同ぬてふ〳〵れて。馬の尻ふあ〳〵ろて。馬そ
助け馬〳〵。馬主「ドウ〳〵。何のまの仏ゴエ。ト宮ふ赤代馬
ふ〳〵ろ早。二十四五年も浄のるぐろけ。いく盗つ芝
ぐ育け〳〵。家〳〵五里計。狐道の在ふ有ふ〳〵さ。国
五郎度とのふ人と。万十郎度とのふ人と。ちらぐ勧進

えんをあるべい。イヤ己ゞ方さ逢ふるつてな。
下の村内よ揚屋ゞ二軒出来やーゞそこでおめえ。おら
ア〳〵ごさつて。ア。ア。をまんべんなく二軒へ割振さ和
ゞ片て方の芝ゞ。日本の住左吏屋ゞ。ハアなまんぬさ
おめえ。片て方ゞ田舎でいろく。昌屋のあつさ倉左吏
屋ゞ。おめえごさも知てゐるべーやるべいゞ。ちまつこと
〳〵奴あるゞ。ピイのあるも出めえとつの形ゞゞ。肝
とぶんぬくやうか左吏ゞ。奴倉左吏といのる。

此村屋屋ゞ揚と云て。此村屋の治兵衛左吏ゞ。
今ゞ八皆古人ぢや。馬士「そこでとゝいてごさるゞ。
備。初日をぶつさきゞ。倉左吏の保利ゞ。よくゝ。
二日目ッゝ。めやうに這入るゞ。又住左吏の方は
さわどでもあて。芝居ゞ思ひの外ゞ。ソコデ住左吏
の方の勧進元ゞいめえ。こりやア何でも左吏ゞ入番
いゝ。其拠據ハ己ゞ聽てもあつちゝ面白いゞ己ゞ
方ハそんあのも忘れ孤人。さりやア仲人の計で左吏

をさをさ聲をも遠慮して。一ぱい。住さんの食ハ世話で
も接ぶとゝのさいう。田舎氣まゝよくあるやつさ。
三ガ月津で。押も押れもせぬ名人の住さんの人ぶ
十人。左手と左のつさくを。住さんの声色をつかふ
わどゝに聲〳〵貴まれるお人でも縁ときゝ風流八
度〳〵雖〳〵で時の表裏のあてりさづれハ
この通りもんぢ。一倉左手のゝ人。江戸ものの義貴人
の顔さんぢやが。住さんとゝ結べて深ける沢でハあん。

でガ倉さんハ荒張の田舎居等ぢや。中藩
まで突抜ゝつゝ如者イヤ又ゝろぷりゝ声ゝ。住
さんハ若盛ゝ遠つて。あの沢ゝひきゝゝして潮ゝ
低ゝ時ゝ。田舎の人ゝにあゝゝが其ゝ。倉さん
も声の好ゝ。けゝさんを真ぜて張る。一大のけれん
けれんであゝ。一体ガチャリを沢ゝて張ゝゝ。
ゝゝ知放題と張ゝゝも。田舎ガ多ゝのさ。一あの
頃の左手の中でも。古人中村屋ゝど。中村や浦ゝ上手竹本村左手ゝのあの

名と八木業もすぐれて居〳〵まてさが。又続れての穿人
であつさ。蔵さ湯屋屋の張る反毎に。楽屋で思く
いつて居〳〵れさがるが丈でも。見物の張るまへ叶はぬ
粋か物。「住さんとも雲泥の論でもらうけども。
あの位は庫の寿羅か丈も強へ。あの時分で軍
の寿羅か。角倍の好丈へ村丈。又かるでも倉
丈丈さ。「村丈さんハあれハ上るぢや。「あいつが
る供の頃ハ正路丈丈揃さ。まづ住さん。住よりや文兎竹本住太夫

魅面合。豊年百丈。和佐丈丈で。下りて。嶋丈丈にるて。
若丈丈で絡つさ。幾竹屋百丈。「まづ絡丈
う。「どうで次郎不間ぢ。は村屋油屋ぞんぞへ
いつもさ〳〵。「下りあが倉丈で。「源ふ絡丈。
は村屋治兵衛さ。声が不間由でも上るでだりつさ
人ぞ。又一人へ豊後節のやうぞと思ハあつされ
どぶる利で利家浄るりとのもと油屋左助切
彦一面丈筆丈でるくちやり義経〳〵ぞんぞ下り

の太夫節も評判のあつこのぶいてゝゝあれど。あまり上るゝゝそれぞれさ。江戸は長唄のたまはまを。そんなものさ。音太夫おの新太夫。森代太夫。伊久太夫。あさとこらが好代物ぞ。まさゝいつことあつこテ。あの時代のこゝは。浜でいひつくされねど。今は宮戸太夫さんが。当時でハひさつい後ろ。古い舞音ふりのこらう。ちゝ歌門太夫。それゝゝ新太夫。それゝゝ今の名ぞ。当時江戸あで上方へ。ぬけてこぶるといふ。まことに風流後行の太夫

ふのさ。一太夫の三の切とゆれさふ。「あ」で横ふ。の四郎兵衛清太夫。甚ゝぎふ三浦太夫。三絃ゝゝ太夫よゆふさ。強太の筆太夫。吃組太夫の沙の組太夫。どれゝゝ上るひぞ。ふるさが清吉ゝふるさ。「下キ」そうや能ぞ。チト下て。芸ふ。「まぐ」。「まぐ」。「まぐでハ」ふいふ。ふう替ふ。「まぐゝゝ」。「おれが」。「おれがてふきう」斯であふとふあさふい。「イヤ」。「イヤ」。「ヤ」。「ヤ」。「

「やそれハたのもしいの。でく「ゑんぞうるるがい。馬士「あに
ハ。こりゃだづうしん。江戸ゑ出よ。笑ハれべつふさ。「徒ぶ口ら
ハうぞい。でく「所ぞ〳〵。馬士「そんるゝ〳〵ゆるべれいる。どう
まるゑんど。笑ハれさら本便ぶど。ト大声上り「詞に面くが
立ちり。わんぶ立ち。義ちぶ相ぶ。仏の人ゆも多ぶ孫ぶ。ゑん孫
「ヨウ〳〵。あるいぞ〳〵。でく「惜ぶ〳〵〳〵。馬士「宮城さん
のお咲ぶ。はるれ咲ぶ。ちるゑんど。でく「イヨうまいと。馬士「ヨウ
ちぶ迷ゆ外れるぞ。ゑいさだぶ。ゆゆ。ゆの為に書れて。け

義と。ちるらゑ。ゑ流と。ゑ世る。ゑ毎に。「ヤ。ヤ。更又
句〳〵。「改章〳〵。イヨ改章さる。あらぶ。ゑ。ゑ中ゑ
馬士「ゑ流と。ゑ世る。ゑ毎に。ゑ中ゑ。ゑ。ゑ。

四鏡堂